



## 日本とヨーロッパの内陸部で、気温や雨量がちがうのはなぜ

### 日本の気候

日本のように四方を海に囲まれている所では、気候は、海の気象の影響を大きく受けます。昼と夜の気温の差はわりあい少なく、雨がよく降ります。

3月から4月にかけて、冷たい雨が降り続くことがあります。6月中ごろから7月中ごろにかけて、「つゆ」の季節のない、北海道をのぞいて、くもりや雨の日が多くなります。

夏の日本は、太平洋高気圧におおわれ、むし暑い日が続きます。9月になると、長雨が続き、冬は、シベリア高気圧からふいてくる冷たい風が、中央にある山脈にぶつかって、日本海側に雪を降らせませす。

### ヨーロッパ内陸部の気候

ヨーロッパの内陸部は、海からはなれているので、上空の水蒸気の量が少なく、晴れる日が多くなっています。昼間は、太陽からの熱をたくさん受け、夜は、地表から熱がにげて温度が低くなり、昼と夜の気温の差が大きくなります。

夏は、海岸の近くに比べて、内陸のほうが太陽の熱で暖められやすいので、気温が高くなります。それに、空気が乾燥しているので、雨が少なくなっています。

また、冬は、海岸の近くに比べて、気温はたいへん低くなります。

### 海洋性気候と内陸性気候のちがいによる

日本のような海に囲まれた地域や、海に近い地域の気候を、海洋性気候といいます。また、ヨーロッパ内陸部のような気候を、内陸性気候といいます。日本とヨーロッパの内陸部で、気温や雨量がちがうのは、この二つの気候のちがいによるためです。

(監修・村山 貢司)

